

がんプロフェッショナル養成プランの実際

平成19年度途中からはじまった文科省「がんプロフェッショナル養成プラン」は、政府の対がん計画、「がん対策基本法」をうけて、がん治療「均てん化」を図る厚労省の「がん診療拠点病院」構想とともに、大学グループの優れた提案に対し財政支援することを目的とした。しかし、蓋を開けてみると当初14程度の採択予定が18に増え、その実質は選別採用というより、ある意味「一網打尽」的に追加加入も含めてなるべく多くの大学を巻き込むような意図がみえた。

いずれにせよ、これまでの文科省の守備範囲を超えた職業人教育を目指すもので、大学院におけるがん専門医、がん専門コメディカルの養成とともに、大学院枠外の社会人教育ともいえる「インテンシブコース」を含んでいる。

「化学療法」「緩和医療」とともに「放射線治療」に重点がおかれ、コメディカル教育では、医学物理士の養成が特に強調されており、患者さんの声とともに諸先生の「広報」の効果もあったと思われる。一方で、我々の慶應大学を含め、一部の大学では実質的な授業料の減免処置をおこなっているが、よりインセンティブを付与するためには、専門医取得への優遇(受験資格研修期間の短縮など)をお願いしたい。また医学物理士養成コースからも多数出現したが、多くはゼロからの出発であり、医学物理に精通した教員不足は明白である。実効性の確保のためには、現在進行中の医学物理士教育の改革案を見据えて、地域、プログラムを超えるコース連携など、今後も関係者で検討していく課題は多いように思う。

慶應義塾大学医学部 放射線科学教室 国枝悦夫

北海道の総合力を生かすプロ養成プログラムについて

札幌医科大学医学部放射線医学講座 晴山雅人

北海道は広大な医療圏を有するため、道内4大学(札幌医大、北大、旭川医大、北海道医療大)の教育資源と道内各地の9地域連携拠点病院をはじめ、職能団体、行政が密接に連携、オール北海道で、がんの専門人材の養成に取り組むもので、平成19年に採用された。今までには認められなかった大学院教育での単位互換をはじめ、チーム連携機能の重要性に着目した合同カリキュラムを導入し、がん専門医師養成とあわせ、医学物理士、看護師、薬剤師など、コメディカル養成について体系的コースを設定した。また、地域の拠点病院と連携した実習や実地修練をはじめ、インテンシブコースでは地域の職能団体や行政と連携、遠隔教育や出前講義なども実施、地域の専門家を育成することを目的に「北海道の総合力を生かすプロ養成プログラム」が作成された。

コースごと養成計画

1. 専門医師養成コース(札幌医大、北大、旭医大)

放射線腫瘍医、がん薬物療法専門医は3大学、緩和医療は札幌医大で取り組む。緩和医療講座と臨

床チームは札幌医大にしかなく、寄附講座緩和医療学と病院内にある緩和ケアチームで構成されている。

2. コメディカル養成コース(札幌医大、医療大、北大、旭医大)

がん看護師コースは、医療大で開設済みである。薬剤師は、北大と医療大で取り組む。医学物理士は北大工学研究科、札幌医大では医学研究科で取り組む。

3. インテンシブコース(札幌医大、北大、旭医大、医療大)

3大学で共同運営する薬物療法コース、札幌医大と医療大で連携し、国立がんセンターなど、専門分野の講師を招聘、地域の拠点病院等でも開催、地域医師会等の参加を促す多職種参加型チームカンファレンスを実施する。

札幌医大における放射線腫瘍専門医養成コースおよび医学物理士・品質管理士養成コース

1. 放射線腫瘍専門医養成コース

従来の大学院は研究を主体としていたが、本コースは臨床を主体としたコースである。日本医学放射

線学会認定医・専門医試験受験資格や日本放射線腫瘍学会認定医申請の条件を満たすための疾患別の患者数の診察、治療計画および治療の実習を数多く受ける。日本放射線腫瘍学会総会への参加、発表、さらに放射線治療に関する学術論文の執筆を行う。

2. 医学物理士・品質管理士養成コース

北大は工学研究科に設置され、工学修士、工学博士を対象としたコースとなっているが、札幌医大では医学研究科に設置されている。受験資格は「①医学・歯学系学部以外の出身者は大学修士課程以上を修了していること。②本学大学院医学研究科において定める職歴および研究歴を有する者であること」である。「医学物理士」申請 2 年前から、日本医学放射線学会医学物理士業績評価実施要綱に従った業績評価の合計が30単位以上取得することである。修了要件は必要な研究指導を受けたうえで、本研究科が行う博士論文の審査および試験に合格することである。平成20年から新たに開講する放射線防護学修士課程に入学することにより、講義の一部は本過程で履修済みと認められ、より臨床実習に重点を置いた教育が受けられる。

おわりに

「がん対策基本法」は、死因の第 1 位を占める「がん」に対する、わが国の国民病に立ち向かう国民の願いに基づく画期的な法律である。この精神の普及

のもとに、本がんプロフェッショナル養成プランが作成されたと思われる。放射線治療の立場からすると、放射線腫瘍医、治療専門放射線物理士、品質管理士の用語が用いられていると共に、放射線治療に特化した診療科等を設けているかなどが審査の対象となっている。本プランは、わが国における放射線治療の地位向上と患者への啓蒙に大きな役割をなすものと期待される。さらに、がん専門医師養成と地域の拠点病院の専門家を育成するという広大な計画からなる。放射線腫瘍専門医養成コースに関しては今年 4 月から札幌医大 2 名(定員 2 名)、北大 2 名(同 2 名)、旭医大 0 名(同 1 名)、医学物理士養成コースは札幌医大 2 名(定員 2 名)、北大 2 名(同修士課程 2 名)が入学している。オール北海道で、がんの専門人材の養成の目的で本プロ養成プログラムは取り組まれ、薬物療法インテンシブプログラムのもと、3 医科大学合同にて講演会が企画された。今年から地域がん連携拠点病院において、他職種参加型インテンシブコースが 3 回予定されている。また、Web会議システム用「大学連携病院間情報ネットワーク」が構築され、合同会議、カンファレンス、E-learningや遠隔講義に活用される計画である。しかしながら、各大学で独自に養成できる分野での協力関係は現在のところ、なかなか構築できない状態であるが、がんプロが開始されて 1 年の状況では仕方ないのかもしれないというジレンマがある。

東北がんプロフェッショナル養成プラン

東北大学放射線腫瘍学分野 小川芳弘

東北がんプロフェッショナル養成プランは、東北大を中心に山形大、福島医大の 3 大学が協力して行っている、がん専門医療者養成のための大学院プランです。このプランには、東北大が腫瘍専門医 5 コース、コメディカル 3 コース、インテンシブ11コース、山形大が腫瘍専門医 2 コース、コメディカル 3 コース、インテンシブ 3 コース、福島医大が腫瘍専門医 3 コース、コメディカル 1 コース、インテンシブ 4 コースの合計35コースあります。このうち、放射線治療に関与するのは腫瘍専門医(放射線治療)が 3 コース(各大学)、コメディカルコースとして医学物理士養成コース 2 コース(東北大、山形大)、インテンシブとして特殊照射法習得コース(東北大)、放射線治療インテンシブコース(福島医大)となっております。本プランの特徴は、がん専門医療者に必要な知識を学ぶために、臨床腫瘍学特論という講義を設け、さらに横断的な臨床実習コースを設けていることにあるといえます。特に、臨床腫瘍学特論は学生がいつでも学習できるように、インターネットスクール形式にしております(Internet

School of Tohoku University, ISTU)。この講師陣は 3 大学にわたり、単位取得も共通となっております。このプログラムでは 4 年間のうちに放射線腫瘍医に必要な知識はもちろん、化学療法や外科的知識、緩和医療に関する知識も学べるようなカリキュラムになっているのが特徴です。さらに、実習は各大学内だけではなく、協力関連施設での実習も可能とし、単位取得ができるようになっております。コメディカルコースとしての医学物理士養成コースは、現在、育成が重要視されている医学物理士の育成を目指したコースで、東北大では修士課程、山形大では博士課程となっております。本年度は山形大では 3 名の入学者がいましたが、東北大では保健学科の大学院設置と重なったためか、残念ながら入学者はおりませんでした。今後、少しでも多くの医学物理士が誕生するように、工学部、理学部等と連携してすすめていく予定です。そのほか、放射線治療関連のインテンシブコースは、4 年間の博士取得コースとは違って、数週間から 1 年程度のあいだ、科目履修生として在籍、それぞれの施設

で行っている特殊照射法(定位照射, 強度変調照射法など)を習得するコースとなっております。腫瘍専門医, コメディカル, インテンシブの各コースとも, 社会人大学院生をも視野に入れた専門医育成のためのコースです。

東北がんプロフェッショナル養成プランでは, 教育, 育成プログラム以外に, 腫瘍医を目指す若い人材のリクルートも事業のひとつとしております。腫瘍に関するさまざまなセミナーを, 東北大学病院がんセンターと共催して行い, 広く院内の初期研修医等にアピールしています。本プランの大学院生は, このセミナー参加による単位取得も可能となっております。さらに, 初期研修医や医学生向けのがん薬物療法セミナーや放射線腫瘍学セミナー等の開催も行っております。本年は 1 月に蔵王(山形県)で, がん薬物療法セミナー, 2 月に松島(宮城県)にて, 北東北がんプロフェッショナル養成プランと共催で放射線腫瘍学セミナーを開催, それぞれ30名程度の初期研修医, 医学生の参加がありました。放射線腫瘍学セミナーの運営, 成果に関しては, 本年度春の北日本地方会にて発表させていただきましたが, 参加者からの評価は高く, このなかから, 実際に来年の入学を目指し, 受験した先生もおります。本年度は, 冬に弘前(青森県)にて, 放射線腫瘍セミナーを開催する予定となっております。

以上, 東北がんプロフェッショナル養成プランの放射線治療に関する概略を紹介いたしました, 本年度の入学者はどうだったかというと, 腫瘍専門医(放射線治療)コースの募集人員 東北大 4 名, 山形大 1 名, 福島医大 3 名のところ, 東北大 1 名, 山形大 1 名, 福島医大 0 名でした。東北大での入学者 1 名は, 本プランの特徴でもある社会人大学院生も可能としたことを取り入れ, 有給の医員として, 働きながらの大学院生の生活を始めています(医員の定員の制限で, 今後の入学者すべてが有給の医員になれるとは限りませんが)。今までの大学院生は, 特に人数の少ない放射線科では, 大学院生とはいえ, 日常の診療にもかなり携わってもらいながら, 一方で学位取得のための実験, 研究を行うといった, 時間的にも, 収入的にも厳しい環境にあったと思います。がんプロの目標は, 学位取得は卒業のために必須ではありますが, 最終的には腫瘍専門医を育成することであり, 日常のがん診療を行いながら, 臨床腫瘍医として成長していくことが重要です。本プランは, その実行を目指しているといえます。本プランはまだまだ始まったばかりであり, これから問題点等も出てくるかもしれませんが, 今後の動向をみていきたいと思いますが, 本プランをはずみに, 専門医, 医学物理士が増加していくことを期待したいと思います。

がんプロ養成講座「南関東圏における先端がん専門家の育成：TOP 9」取り組みのご紹介(放射線治療)

北里大学大学院医療系研究科 佐藤威文, 早川和重

養成プランの概略

文部科学省の平成19年度がんプロフェッショナル養成プランに採択された, 「南関東圏における先端がん専門家の育成—患者中心のチーム医療を牽引する人材養成の拠点づくり—: TOP 9(Training Program for Oncology Professionals in 9 Universities)」は, 北里大学, 慶應義塾大学, 聖マリアンナ医科大学, 東海大学, 山梨大学, 首都大学東京, 聖路加看護大学に加え, 平成20年度より, 信州大学および東京歯科大学が加わり, 現在 9 大学 14 研究科の共同事業体として遂行・運営されております(事業推進責任者: 岡安 勲研究科長, コーディネーター: 益田典幸教授)。

当該プランは, 南関東エリアでの先端がん治療の均てん化を目指し, がん医療の臨床現場を強力に牽引するスペシャリスト集団を養成することを目的としており, 医師のみならず, 各コメディカルの育成実績の基盤に立脚した「がん専門職業人」の養成を現在遂行しております。また, インテンシブコースにおいては, 約50に及ぶ関連病院を母体とし, 関東圏広域に受講者を募り, 受講者の状況によっては

大学病院の病棟医(有給)として採用し, 宿泊施設を提供するなど, そのサポート体制を充実させております。さらに開業医, 勤務医, コメディカルなど, 地域職業人に対しても, 短期(1 日~1 カ月)集中プログラムを構築し, 各ニーズに対応した展開を行っております。

このような養成プランの立ち上げによって, 平成20年度は修士・博士課程において計67名の受け入れが完了しており, その職種も医師のみならず, 放射線技師, 看護師, 薬剤師, 歯科医師など他職種にわたり, 当初の目的である「各スペシャリスト集団の養成」に向け, 順調な滑り出しとなっております。

また, 全職種参加による「チーム医療ワークショップ」が本年 8 月 2 日から, 4 泊 5 日にわたる合宿形式で実施され, 互いの職種についての理解のみならず, 第一線で活躍している専門家による講義等, ファカルティ・ディベロップメントを含めた癌の医療人間科学, 医療, 先端研究についての深い知識が習得できるよう取り組んでおります。

さらに, 大学院生の独創的な発想によるがん医療研究を発展させる目的として, 「がんプロフェッ

「がんプロフェッショナル養成プラン大学院生プロジェクト」を立ち上げ、本年は博士課程が 5 件、修士課程が 2 件、それぞれ採択され、研究費のサポートも開始しております。

放射線治療に関わる「がん専門職業人」の養成・取り組み

1. 修士・博士課程カリキュラムについて

当該プランでは、「放射線治療に関するがん専門職業人の充実」を目玉としており、北里大学放射線科の早川和重教授(同養成プラン運営委員)を指導教員として、「放射線治療専門医養成コース」(博士課程)はもちろんのこと、同治療に携わる専門のメディカル養成コース(修士・博士課程)として、がん看護師、医学物理士・放射線治療専門技師、がん専門薬剤師、リハビリ療法士の育成を目標としたカリキュラムも有しております。特に、放射線治療に重要な役割を担う医学物理士、放射線治療専門技師の育成では、首都大学東京などとの多施設連携を念頭に置いたカリキュラムとなっております。これまでも、本学大学院の修士課程修了者の中には同施設で研修を終了するなどの実績もあり、博士・修士論文テーマも、粒子線を含む放射線治療に関する内容のものが多く含まれるなど、同カリキュラムによって、更なる医学物理士や放射線治療専門技師の育成が十分期待できると思われます。また、当施設では、診療放射線技師が、隣接する医療衛生学部での講義担当や、定期的に医療衛生学部の教育職へ配置されるなどの交流が盛んであり、

このような恵まれた育成環境を生かしたカリキュラムとなっております。

2. 放射線治療インテンシブコースについて

本プロジェクトでは標準的治療だけではなく、先端の技術や知識の包括的がん治療の集中的教育を目的として、3 カ月を 1 コースとしたインテンシブコースも設置されております。放射線治療も本コースの選択領域に含め、希望者には当院で実施している定位放射線照射技術、密封小線源療法(前立腺、子宮)、化学放射線療法の実践を短期研修してもらうコースが設定されており、受講者には宿舎の確保と経済的支援制度も整備しております。さらに「前立腺がん密封小線源療法」については、これまでも15施設に及ぶ治療見学・立ち上げをサポートしてきており、これらを鑑みて 1 日受講の短期インテンシブコースを別途設定し、本療法に携わる医師のみならず、放射線技師・看護師教育のプランも用意されております。

おわりに

当施設においても、放射線治療の適応症例は急激に増加してきており、放射線治療専門医のみならず、治療の質の点からも、医学物理士や放射線治療専門技師の育成が急務とされております。同プランの立ち上げにより、数年後には南関東圏における放射線治療の更なる充実と、その品質の担保がより確実となることを期待して、本稿のおわりとさせていただきます。

がんプロフェッショナル養成プラン 京都大学における取り組み

京都大学大学院医学研究科放射線医学講座放射線腫瘍学・画像応用治療学 光森通英

がんプロフェッショナル養成プランも 2 年目後半に入り、KOSM連合(京大、大阪医大、滋賀医大、三重大)による「高度がん医療を先導する人材養成拠点の形成」も、当初の手探りの状態から、少しずつ実質的な活動が動き出している状況である。

そもそも、このがんプロフェッショナル養成プランは文字通り、がん診療の専門家を育成するのが狙いであり、中でもがん看護、緩和、化学療法とならんで、放射線治療の専門医および医学物理士が育成の対象として明記されている。我々は、これを放射線治療専門医および医学物理士量産の絶好の機会ととらえ、平岡教授の強力なリーダーシップの下、申請段階から積極的に取り組んできた。申請の作業があまりにも大仕事であったために、プログラムが採択されたときの達成感は大変大きく、なにか、これでもう自動的に放射線治療専門医や医学物理士の量産が約束されたような錯覚に陥ってしまったものである。但し、現実にはそのようなことは起

こるはずもなく、2 年目開始と同時に直面したのは、申請書に記した専門医養成見込み人数と実際の大学院入学人数の大きな差であった。これは放射線治療医に限ったことではなく、化学療法専門医に関しても同様であり、我々のように日常臨床を癌 100%でやっている人間と大学院入学前の若手医師の意識には大きなズレがあるようである。6 月には京大の関連病院で研修中の後期研修医を対象にがんプロ大学院説明会を行ったが、院外からの参加者は数えるほどで、改めてがん専門医療人を増やすことの難しさを実感させられた。

さて、私自身は京都大学のがん専門職教育管理委員会の委員長補佐および放射線治療担当コーディネーターとしてプロジェクトに関わっている。後者については、放射線治療のがんプロ大学院生の教育担当ということであるが、最近の放射線治療の大学院生のおよそ半数はこれまでも、いわゆる臨床研究で学位を取ってきたので、大学院生のあり方そ

のものは、がんプロ以前とほとんど変化はなく、従って、担当コーディネーターのdutyといったものは生じていない。もちろん、今後、放射線治療の大学院生が夢のように増えることがあれば、研究・研修内容の調整といった本来のコーディネーター業務も生じてくるであろう。というわけで、現在、私が最もエネルギーを使っているのが、今回のがんプロ大学院教育の目玉とも言うべき臨床腫瘍学コアカリキュラム講義である。これは、ASCO/ESMOのrecommendationに沿ったカリキュラムで行われる通年講義であり、年間30コマ行われる。当初、わずかに数人の大学院生のために多忙な先生方に講義をお願いして、出席者が少ないと(出席者ゼロも、京大なら十分あり得る)大変困ったことになるかと心配したが、講義をオープン講義として、コメディカルを含めて院内に広く案内したところ、毎回40名以上の参加者をえて、活発な質疑応答が行われている。さらに、この秋学期より、がんプロ資金によって導入した遠隔会議システムを用いて、他の3大学および京大の関連病院のうち、特にがん診療に力を入れている病院に、この講義を配信することを始めている。システム自体に多少の技術的な課題は残るが、限られた教育資源を有効に活用するという点で大変有用である。この遠隔講義は、関連病院で活躍中の医師に対するリフレッシュコース的な意味合いも持つが、最も重要な目的は、がんプロの存在そのものを関連病院で研修中の修練医に知らしめ、がんプロ大学院の入学希望者をリクルートすることであると考えている。そのため、関連病院の研修担当者にこのコアカリキュラム講義を先方の研修プログラムの正式な項目として認めてもらえるよう、働きかけを進めているところである。

このような活動の中で少し気になっている点がある。ひとつは、がんプロにおける放射線治療専門コースの入学資格の問題である。がんプロのもうひとつの大きな柱の一つであるがん薬物療法の専門医について、その背景はさまざまである。すなわち、泌尿器科や乳腺外科、消化器内科、呼吸器内科など、さまざまな診療科での後期研修を経て、がん薬物療法専門医コースに入学することができる。とこ

ろが、放射線治療専門医コースに関しては(少なくとも京大の募集要項では)、放射線治療の後期研修を受けたものしか応募できない。つまり何のことはない。がんプロができて、放射線治療医が自動的に激増するというのは全くの幻想であり、放射線治療の後期研修医をリクルートできた数以上に増えようもないのである。もちろん、他大学の後期研修プログラムで修練した者を引き抜いてくれば、京大がんプロの人数は増えるが、国全体としては増えたことになっていない。国に約束しただけの放射線治療専門医を養成するためには、これまで以上に、学生および前期研修医に対するリクルート活動を頑張らなければならない。あるいは考え方を変えて、たとえ放射線治療の素人であっても、がんプロ大学院に入ってくれさえすれば、4年間で必ず一人前にして、おまけに学位までとれますというシステムにしなければならない(ただし、大学によってはそれに伴う学位の要件の緩和を容認しない動きもあり、簡単ではない)。もうひとつは、教育リソースの問題である。京大は今回のがんプロ予算で特任の教員を4名雇用し、これに寄付講座である集学的がん診療学講座の教員なども合わせて、コアカリキュラム講義を行うことが可能になっているが、主にマンパワー不足によって、このような講義を行うことができていない大学も多いようである。また、講義が行えているところに関しても、内容は全国似通ったものであるはずだが、各がんプロごとに全く独立して講義が行われており、国全体のレベルで見れば、マンパワーの無駄を生じている。先に述べたようなIT技術を駆使すれば、一つの講義を全国で共有することも可能ならずであり、JASTROなど全国的な組織に音頭をとっていただき、集約する方向に進めていきたいと思っている。

以上、これまでの京大の取り組みを放射線治療専門コースコーディネーターの立場から報告した。今後、各がんプロ養成プラン独自の動きに加えて、さらに効率的に放射線治療医を量産するために、「全JASTRO」での横断的な協力体制が構築されていくことを願ってやまない。



中国・四国広域がんプロ養成プログラム ——チーム医療を担うがん専門医療人の育成—— がん医療に携わる専門医師養成コース：放射線治療専門医養成コース

岡山大学病院放射線科 武本充広，岡山大学大学院医歯薬学総合研究科放射線医学 金澤 右

はじめに

本プランは、中国・四国 8 つの大学(愛媛大学、岡山大学、香川大学、川崎医科大学、高知大学、高知女子大学、徳島大学、山口大学)が 1 つのコンソーシアムを作り、各大学院にメディカル、コメディカルを含む多職種のがん専門職養成のためのコースワークを整備し、これに地域の26のがん診療連携拠点病院が連携することにより、広い地域にムラなく、がん専門職を送り出すプログラムである。大学院臨床専門医コース(放射線治療専門医養成コース)はコンソーシアム内の高知女子大学を除く 7 大学が担当し、年間 7 名の放射線治療専門医の養成を目標としている。その修了要件としては、日本医学放射線学会の放射線科専門医(治療)取得のためのカリキュラムを終了するため、3 年次または 4 年次までに講義・演習、臨床研究および実技・実習(専門科目)として規定の単位を履修することである。4 年間で臨床研究の結果を論文として発表、その論文で学位審査を受け、合格することで学位が授与される。

進捗状況・今後の計画

平成20年度の放射線治療専門医養成コースのコンソーシアム内入学者は計 3 名である。岡山大学では本年度より、専攻間共通基礎教育課程科目である「悪性腫瘍の管理と治療」の講義が開始となり、当教室は放射線治療総論を担当している。去る 2008 年 7 月に岡山にて、第 2 回ワーキンググループ討議が行われた。2 年後の放射線治療専門医科目の講義(放射線治療各論・放射線生物学・放射線物理学・放射線診療の社会的側面)開始を控え、分担とりまとめ責任者の決定と講義や実習の基本的方針についての合意がなされた。すなわち、1. 講義内容は、放射線腫瘍学会の卒前教育コアカリキュラムに基づく教育スライドや、専門医会の放射線治療ガイドラインも参照し、専門医試験ガイドラインを網羅した形とすること、2. コンソーシアム内での共通部分と各大学の特色(得意分野)とを分けて構築し、実施した講義は遠隔地においても聴講でき、さらに繰り返し学習できるよう、e-learningのサーバ内に蓄積していくこと、3. 最低経験症例数は専門医試験ガイドラインに準じ、大学ごとの偏りがある疾患や特殊な治療法については、一定期間の相互研修を加えること、4. コンソーシアム内でも経験できない先進的治療法(粒子線治療等)はコンソーシアム外の国内研修で補うこと、の 4 点である。

なお、講義・演習の共通部分では、医学物理士・放射線治療品質管理士養成コースとの相互乗り入れを行う。近日中に講義分担を確定し、コンテンツの作成に取りかかる予定である。ファカルティ・ディベロップメント(FD)として、昨年度は医学物理士・放射線治療品質管理士養成コースと共同で、米国での研修を行った。今年度も同様の海外研修が予定されている。また、インテンシブコースを中心としたFDセミナーが中国・四国各地で定期的開催されている。コンソーシアム内でのコミュニケーションツールとしては、メールベースのウィークリーレポートと紙媒体のマンスリーレポート(Web上でもバックナンバー閲覧可能)があり、講演会の通知、海外研修・学生募集の連絡、研修報告、学生やがん診療連携拠点病院長の報告記事が掲載されている。

問題点・課題

最大の問題点は「マンパワー不足」の一言に尽きる。本養成プログラムは期限付きの予算配分ということもあり、専任ポストの増設はかなり困難である。残念ながら、現時点では当コンソーシアム内でのポスト増設はない。前述したe-learningを活用した分担講義や、既存のキャンサーボードに組み込んだ実習が、この解決の一助となるものと考えている。いかにせん、何事も初めてのことであり、e-learning素材著作権のクリアや、コンソーシアム内での単位互換も含めた単位認定の方法などのノウハウ不足も課題である。これらに対してはFDの充実や、コンソーシアム内のみならず、コンソーシアム間での情報交換をもって対処しなければならない。学生の確保も大きな課題であり、本学では本年度 1 名の入学者があったが、来年度以降は未定である。医学博士を取得すること以外の「メリット」を感じていないのではないだろうか。専門医資格の優遇など、学会としての対応も望まれるところである。



九州がんプロフェッショナル養成プラン ——概要と課題——

九州大学大学院医学研究院臨床放射線科学 塩山善之

1. はじめに

「九州がんプロフェッショナル養成プラン」は、がん医療に関する専門的な知識・技能を有する医師及び他の医療従事者を養成し、九州における質の高いがん医療の均てん化を図ることを目的としている。概要と特徴、現状と問題点などについて概説したい。

2. 全体の概要と特徴

九州の13大学(九州大学、久留米大学、産業医科大学、福岡大学、熊本大学、長崎大学、佐賀大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学、福岡県立大学、九州看護福祉大学)の連携により、がん診療についての教育、行政や医師会と連携して、九州全域にがんの医療、情報収集、教育、研究を展開することとなっている。各大学は、おのおののコーディネーターを中心に独自の教育プログラムを実施し、教員の交流や科目の共有により、効果的かつ効率的な教育の実現を目指している。また、各大学病院より輩出された本プログラムの修了者は、このネットワークを通じて、地域のがん医療の担い手として各地に配置する予定である。

放射線治療に関する医師及び専門従事者の養成コースについては、1)放射線腫瘍医養成のための博士課程コース、2)同インテンシブコース、3)医学物理士及び放射線治療品質管理士養成のための修士課程コースが設けられている。大学別の各コースの設置状況を表1に示す。その他、臨床腫瘍医師、がん専門薬剤師、がん看護師などのコースが設定されている。

各大学の連携を図るとともに、プログラム全体の円滑運営を図るため、「九州がんプロフェッショナル養成協議会」が設けられ、採択当初は月1回、現在は2カ月に1回の頻度で開催されている。

3. 放射線治療関連の養成コースにおける取り組み

表1に示すように、放射線腫瘍医師養成のための大学院博士課程コースを設置している施設は、九州大学をはじめ7大学であるが、平成20年度と同コース大学院への入学者は、九州大学、長崎大学、琉球大学、各1名で、まだ計3名である。近年の放射線治療の進歩に伴って、各大学ともに放射線治療に興味を持つ医学生・研修医も増える傾向にあることから、今後、志願者は増加するのではないかと期待している。インテンシブコースに関しては、7大学に設置されているが、平成20年4月現在で、2名のコース受講者という現状である。インテンシブコースに関しては、九州大学のように臨床実習や講義からなる科目等、履修生(1年間)とい

う形式をとっている大学もあれば、数回のセミナー受講のみという形式の大学もあり、施設により、その形態はさまざまである。

九州全体の取り組みとして、本年8月30日～31日、2日間にわたり、「九州放射線治療セミナー」を福岡県久山町で開催した。本セミナーは、研究発表、問題症例の検討、特別講演等、九州の放射線治療医の勉強・交流の機会として年1回開催していたものであるが、今年より、九州がんプロフェッショナル養成協議会後援として開催することとした。「がんプロ」の大学院生のみならず、初期臨床研修医、後期専門研修医も参加し、例年以上に参加者も多く、活気あるものとなった。今後、若手医師に対する教育講演などを盛り込む等、更に工夫を行っていく予定である。

医学物理士・放射線治療品質管理士養成コース(修士課程)としては、九州大学と琉球大学の2施設で開設され、九州大学で8名、琉球大学で1名の学生が在籍している。今後、放射線腫瘍医師養成コースと教育・研究両面で緊密に連携をとりながら進めていく必要があると思っている。

4. 課題と対策(JASTROへの要望も含めて)

概要の部分で述べたように、参加大学が他のプログラムと比べ非常に多いことが、「九州がんプロ」の最大の特徴である。うまく機能すれば、その成果は非常に大きなものとなる可能性を有している。しかし、その反面、参加大学間での密な連携という点では、逆に難しい面もある。このような観点から、少なくとも放射線腫瘍医養成コースに関しては、九州の放射線治療医が一丸となって進めていけるような組織体制づくりが必要と考えている。

指導的立場の放射線治療医への更なる負荷の問題は切実である。元来、各施設ともに放射線治療医の数が少なく、近年の治療患者数ならびに高精度治療の増加、院内カンファレンスの増加など、臨床業務が急激に増加している。そのうえ、がんプロ関連の講義、セミナー講演(臨床腫瘍医、がん専門薬剤師などの他の養成コース対象も含む)、会議などが更に増加した。「日本の放射線治療の将来のため」と、限界を超えて頑張っているのが実情というところである。抜本的には、大学における放射線治療学の教育組織の確立・整備が望まれるところであるが、まずは、参加大学で講義教材作成を分担、共同利用するなど、少しでも負担軽減できる方法を検討している。著作権の問題など、慎重に対応しなければならないが、e-learning教材の作成・活用も必要であろう。JASTROホームページ上の教育スラ

表 1 各大学のコース設置状況

大学名	放射線腫瘍医養成コース (博士課程)	放射線腫瘍医養成 インテンシブコース	医学物理士・ 放射線治療品質管理士 養成コース(修士課程)
九州大学	●	●	●
久留米大学	●	●	—
産業医科大学	●	—	—
福岡大学	—	—	—
佐賀大学	—	●	—
長崎大学	●	●	—
熊本大学	●	●	—
大分大学	●	●	—
宮崎大学	—	—	—
鹿児島大学	—	●	—
琉球大学	●	—	●
福岡県立大学	—	—	—
九州看護福祉大学	—	—	—

イドを更に充実していただき、がんプロ教育にも活用させていただければと思っている。

「がんプロ」への志願者増加の方策としては、まずは卒前教育及び学生・初期研修医勧誘が重要であることは言うまでもないが、時間もかかる。一方で、放射線科専門医資格を持ち、放射線治療医としての知識と経験も持ちながら、JASTRO認定(協

力)施設以外の病院で従事しているため、認定医申請資格要件を満たせないでいる医師が存在することにも目を向けるべきと考えている。そのような医師が働きながら、がんプロの大学院コースまたはインテンシブコースを履修した場合、認定医申請の際の研修期間として認めていただくなど、JASTROとしてのバックアップをお願いしたいと思っている。

